

・平成29年9月14日に山梨大学工学部の先生2名及び工学部学生4名が、浅間山火山噴火緊急減災対策事業について、現地見学に見えられました。当日は天気も良く、浅間山も見られ、濁沢第二砂防堰堤では、砂防ソイルセメント作業が最終層の施工でした。



濁沢第二砂防堰堤工事現場



工事説明状況

見学場所：濁沢第二砂防堰堤（基本対策施設）⇒濁沢砂防堰堤（暫定緊急対策施設）⇒片蓋川第二砂防堰堤（基本対策施設）⇒片蓋川第7・8補足工（暫定緊急対策施設）⇒砂塚ストックヤード

工学部学生の見学感想

実際の現場は想像以上に規模が大きく、噴火等により発生する土砂災害が大規模なものであると感じました。そのような自然災害から住民の命や財産を守るために、現場で作業をしている方の姿はとてまかつこよく映り印象に残っています。

また、今年施工されたばかりの砂防の天端に上がらせていただいたことはとても貴重な経験でした。天端のセメントが含まれている土と含まれていない土の感触など、工事完成後には触れることのできない部分も見ることができました。



片蓋川第二砂防堰堤工事現場



工事説明状況

工学部学生の見学感想

・私自身、来年からゼネコンで働くこともあり現場の雰囲気や受注者や発注者の仕事内容について深く知ることができる大変良い機会であったと感じております。

また群馬県では浅間山の火山噴火に備えた工事が行われていることを初めて知り、減災対策が急ピッチで進められていることから人々の生活を便利にするだけでなく、命を守るためにやらなければならない仕事であると感じました。

・実際の現場を見学したことで現場の職場についてイメージをもつことができ、今後の進路の参考になりました。

・今回の見学によって、国土交通省の方の仕事がどのようなものであるかを理解するとともに、身近に感じることができました。砂防堤の上から見た絶景や、テトラポッドの集積所でのモダンアートの積み重ね方等、とても魅力の多い見学会でした。